



# 副院長 堤 慎司 プロフィール

こんにちは！堤 慎司（ツツミ シンジ）です

鍼師、灸師、柔道整復師  
5月16日生まれ(ジャネット・ジャクソンさんと同じです)  
A型  
最近は釣りにハマってます



## ～偉大な兄と泣き虫弱虫なわたし～

兄と妹がいるのですが幼少時代は兄にべったりでした。  
わたしが出来ない事や知らない事を、何でも出来る知ってる兄は泣き虫弱虫なわたしにとってヒーローでした。  
ある日、保育所で肝試しがあったのですが、泣き虫弱虫なわたしは同年代の友達とは行かず、  
先生に泣きつき兄と一緒に肝試し会場の教室に行った程です(^.^)(先生あの時は無理言ってごめんなさい)

## ～父からの洗礼～

わたしの小学校は三年生から少年団に入団できたのですが、マイヒーローが野球少年団に入っていたのでわたしも三年生になり迷わず  
「僕も野球やりたい！」と父ちゃんに伝えると  
「よし、じゃあキャッチボールしてみるか！」

父ちゃんノリノリです^\_^

しかしまあ、弱虫ボーイにとってキャッチボールするのは恐怖な訳ですね  
恐怖のあまり顔の前にグローブを構えてしまいました…「あれ？まだかな？」とグローブを下げるとアゴにボール直撃！☆。☆  
「なんだ、この危ないスポーツは！」  
「こんな小さいボール取れるか！」  
たった一球で野球を諦めミニバス少年団に入りました ポールも大きいし 笑



## ～怪我をきっかけに治療家に～

大きなボールで安全なはずのバスケットでしたが、やはり怪我はします。  
中学生で膝を傷め接骨院に通院していました。  
そして満足に練習も出来ず通院するのめんどくさくなっていった頃、母の言葉に耳を疑いました…  
「先生、倒れたらしい」  
ショックと不安がありました。  
「これからどうしよう…まだ膝痛いのに…」  
先生から教えて貰ったストレッチは全くやっていませんでしたが、当時のわたしは  
「痛みが取れないのは先生が居なくて治療出来ないから」と先生のせいにしていた事を今になって思います。  
膝の痛みも増すばかりで、ついに練習に参加出来ず体育館の隅でただだけ見学しているだけになりました。  
三年生が引退しいよいよ自分達が引く張っていく立場になり焦りは増します。もう痛いなど言ってもらえませんがむしろ練習に参加していました。  
「先生が復活した」

母の言葉に浮かれていました  
「また先生に治してもらって部活が出来る！」  
期待を胸に接骨院に行き、以前より一回り小さくなった先生を見てわたしはまたショックを受けました。今度は自分自身に。  
罪悪感だったのかもしれません。  
先生のせいにして自分が嫌になると同時に、絶対にチームに欠かせない選手になってやる！という思いが込み上げて来ました。  
そして「**大きくなったら、自分のように怪我で悩んでいる子の手助けをしたい**」という気持ちも芽生えました。  
これが治療家の道を選んだ理由です。

## ～祖母の認知症が悪化～

わたしの大好きな祖父がなくなったのを切っ掛けに、祖母の認知症が日に日に悪くなっている事には家族一同気付いていました。  
当時のわたしは病院のリハビリテーション科に勤務しており、認知症の患者さんのリハビリも数多く担当していた事もあって、  
あまり深くは考えていませんでした。むしろリハビリに関しては自信がありました。  
しかし、いざ祖母と話をしていると  
「こは何処ですか？」  
「ご飯食べてない」  
など刹那みの質問責め  
夜な夜な起きてきて流しの生ゴミをあさっている姿も何度も見ました。  
イライラしました。  
何度も気持ちを押殺しました。  
正直、感情的になってしまい怒鳴ってしまった事もあります。  
**家族皆がストレスからのうつ症状の一歩手前でした。**



その時期と同じ施設に入っていた方が脚の骨折で入院、術後のリハビリを担当しました。  
自力での歩行が可能になるまでに回復した自身満足していましたが、肝心の施設側からは  
「歩けると困るんですよね。また怪我をする可能性がありますから」とのクレーム。  
もうどうして良いのか分かりませんでした。  
この仕事向いてないのかなと、しばらく真剣に悩みました。  
そして、たまたまわたしが家に居たある日  
「お客さんこちらに座って下さい」と言う祖母の言葉を聞いた時は何ともいえない感情が込み上げて来ましたが、  
その場は必死で涙をこらえました。実の母から言われた父はわたしより動揺していると思ったからです。  
わたしはお風呂場で泣きました。誰にも悟られないように…  
公私共にメンタル面でボロボロでしたが、以前わたしが担当し退院した方が再度入院となり  
「堤先生じゃなきゃリハビリしない」という言葉をナースの方から聞かされた時に、「この方が居る間は辞めない！」と決意しました。  
この言葉には本当に救われました。  
やっと自分の居場所が見付かった思いです。

## ～わたしにしか出来ない事を～

まだ未熟な面はあるかと思いますが。  
しかし、困っている方の為は何かにあげたいという想いに偽りはありません。  
身内に関する悩みは非常に深く重たいのはわたしが身をもって体験しました。  
医学的な知識、経験とは別次元の世界です。  
全く役にたちません。  
もし悩み・苛立ちがありましたら、わたしが聞きます。話すだけで楽になります。  
**ストレスなど心的疲労による身体の症状でしたら、お任せ下さい！**

わたしは皆様の心身共に健康のお手伝い出来る、この仕事が出来て最高に幸せです！  
そして治療家へと導いて頂いた接骨院の先生、家族に感謝します。

